

ずいそう

## とある講演会

會澤達也



昨年の暮れのことでした。取引先の方から、とある講演会の案内をいただいた。案内状には『矢内理絵子 女流四段 講演会』と書いてある。おお～、私は大変感激して、すぐに講演会の申し込みを行いました。何故なら、将棋は小さい頃から大好きなことのひとつであったからである。しかも、矢内理絵子さんと言えば、皆さんご存知の、いや、将棋ファンならご存知の番組、日曜午前のNHK杯テレビ将棋トーナメントの司会者であり、解説者の聞き手である。一度、ご覧になっていただくと分かりますが、矢内女流四段は、いつも冷静できっちりとした受け答えをしています。更に現在は日本将棋連盟女流棋士会会長でもある。

講演会の内容の前に私と将棋について少し書きます。私が将棋を始めたのは4歳くらいです。部屋のどこかにあった将棋盤と駒を見つけ、当時は祖父相手に毎日指していました。次第に、兄や父、親戚の伯父さん達とも指すようになり、半端なくのめり込んだ記憶があります。幼稚園の時に地区の大会などにも出場し、上級生に負けて悔し泣きをしたのを今でもはっきりと覚えています。そこから、将棋の戦法を学び始め、小学校高学年ではそこそこの腕前になり、一時はプロを目指そうと思った時もありました。しかし、それはそんなに簡単なことではなく断念。今は、私の本当に大好きな趣味のひとつとなっています。

さて、講演会の内容。矢内女流四段が将棋から学んだ6つの力「集中力」「創造力」「直感力」「決断力」「忍耐力」「失敗に対応する力」これらをもとに成功に導く思考法についてでした。話し方も上手で、ユーモアもあり、とても聞きやすかったのを覚えています。中でも、私がそうかと感心したことや改めてそうかと思つたことが三つありましたので紹介します。

一つ目は、将棋を指すとき『沈黙思考』をすることが出来る、ということ。『沈黙思考』とは黙ってじっくりと深く物事を考え込むこと。とある。確かに、将棋を指すとき、将棋のことだけを考え、集中し、そのことだけに没頭することが出来る。現代社会は携帯電話やスマートホンなど、そんなものに気をとられ、ひとつのことに没頭することが今、どれほど出来なくなっているのか。将棋は集中力や忍耐力を鍛えるには

もってこいではないでしょうか？私も物事に没頭するタイプではあり、将棋の良い影響をうけていたのではないかと感じた。

二つ目は、直感力は自らの経験から生まれる。ということ。物事を考えたり、決断する時、このパターンはこうやろうとか、こっちを選択しようなどということはよくある。そのときの考えは、日頃自らが経験したことを元に生まれるという。自らが日々、様々な経験をつむことが重要であり、経験を元に決断力を磨いていく必要があるのだと感じた。

三つ目は、三手先を読む。その際、二手目に最悪の事態を想定する。ということ。自分の都合だけで一手目を指し、自分の都合の良いように相手の二手目を想像した時、自分が指す三手目は自分の想像した通りにはならないという。確かに、なるほど。私も営業職であり、多少苦い経験がある。自分勝手な提案や相手の立場を考えずに商談を小手先で行うと、必ず失敗する。その、典型的な例の事だなど、改めてハッとした。

他にも、矢内女流四段が生涯結婚しないと決断したにも関わらず、熱烈なファンの方からのファンレターがきっかけで結婚したエピソードで何故、結婚を決断したかなど、ファンの質問にも丁寧に応えたり、とても楽しい講演を聞かせてもらえました。今回の講演会は、私の趣味の将棋と関連性があつたせいか、本当に楽しかった。改めて、将棋の良さや奥深さを知ることが出来たし、将棋を指してきて良かったと思つた。今の私の集中力や忍耐力、創造力、決断力が多少あると思えるのも将棋を幼いころから指してきたおかげなのかもと内心思えました。矢内女流四段、楽しい講演ありがとうございました。よかったら、皆さんも日曜午前NHK教育TV見てください。講演会を案内して下さったR社様もありがとうございました。あともう一人、幼いころ、私に将棋を教えてくれ、毎日毎日、将棋を指してくれて、わざと勝たせたり、こてんぱんに負かしたり、あちこちの将棋大会にも連れて行ってくれた亡き祖父にも感謝したい。